

資料編

第2次計画の推進と第3次計画策定の経過

実施日	内容
平成24年7月26日	第10回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 リーダー、副リーダーの選任について 2 第二次食育推進計画における取組（案）について 【報告】 1 各団体の食育に関する取組について
平成25年2月22日	第11回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成24年度食育に関する取組みについて 2 小牧市の食育推進における今後の課題・解決策について
平成25年7月11日	第12回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成25年度食育に関する取組み予定について 2 取組みにおける課題・問題点について
平成26年3月14日	第13回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成25年度食育に関する取組みについて 2 平成26年度食育推進活動について
平成26年7月31日	第14回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成26年度食育に関する取組み予定について 2 取組みにおける課題・問題点について

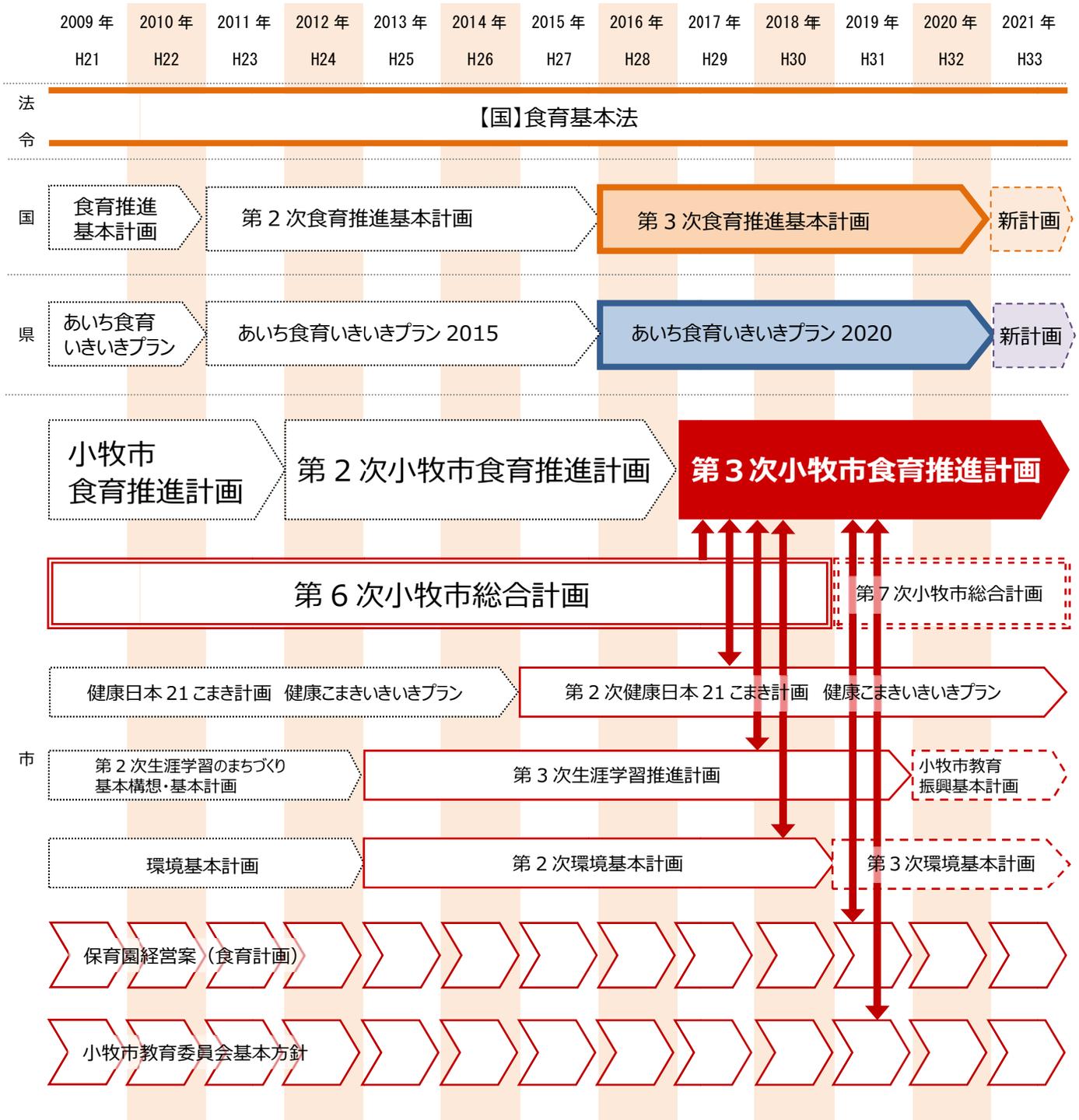
実施日	内容
平成27年2月26日	第15回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成26年度食育推進活動の報告について 2 平成27年度食育推進活動について 3 その他
平成27年8月6日	第16回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成27年度食育に関する取組み予定について 2 食育講演会について
平成28年2月25日	第17回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 平成27年度食育推進活動の報告について 2 平成28年食育カレンダーについて
平成28年8月4日	第18回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 第3次小牧市食育推進計画の策定について 2 平成28年度の小牧市食育推進チームの活動について
平成28年10月	小牧市食生活等に関するアンケート調査の実施
平成28年11月29日	第19回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 第3次小牧市食育推進計画の策定について (アンケートの集計結果) 2 その他
平成29年1月26日	第20回小牧市食育推進チーム会議 【議題】 1 第3次小牧市食育推進計画(案)について 2 平成28年度食育推進活動報告について
平成29年2月2日～ 3月3日	第3次小牧市食育推進計画(案)に対するパブリックコメントの実施

小牧市食育推進チーム メンバー

平成 29 年 3 月現在

メンバーの役職名	氏 名	備 考
食育に関して専門知識を有する者	長島 万弓	チームリーダー
栄養学に関して専門知識を有する者	中東 真紀	副チームリーダー
小牧市医師会代表	菱田 直基	
小牧市歯科医師会代表	村上 純一	
尾張中央農業協同組合代表	吉野 智昭	
小牧市小中学校長会代表	吉原 文子	
小牧市食生活改善協議会代表	河和 佳美	
こまき環境市民会議代表	今枝 正	
小牧市私立幼稚園連合協議会代表	堀 雅子	
小牧市生活改善実行グループ連絡研究会代表	小島 政子	
栄養教諭	林 紫	
愛知県食品衛生協会 小牧支部代表	高橋 美喜雄	
一般公募	小久保 直好	
一般公募	藤岡 富士江	
保育課長が指名する者	丹羽 和子	
保健センター所長が指名する者	赤塚 真規子	
環境対策課長が指名する者	山中 満里子	
学校教育課長が指名する者	梶田 光俊	
学校給食課長が指名する者	古里 一成	
生涯学習課長が指名する者	社本 里美	
尾張農林水産事務所長が指名する者	榑 隆雄	

計画の期間と他計画との関連性



現状と課題のまとめ

【現状】

【課題】

朝食は 9 割弱がほとんど毎日食べている
朝食を食べない理由は「時間がない」、「食欲がわかない」、「食べる習慣がない」
朝食を食べている人は、朝食の質に課題がある
食生活に問題があると思っている人は 7 割
食生活での問題点は「栄養のバランス」
「食事バランスガイド」の認知度は 7 割、内容認知は 3 割
一般市民と小中高校生の約半数がやせたいと思っている
適正体重を知っている人は一般市民で 9 割、小中高校生で 6 割
小中高校生のダイエット経験は 2 割
「メタボリックシンドローム」の認知度は 9 割以上

食事を楽しみにしている人は園児で 8 割、小中高校生で 7 割、一般市民で 6 割
食事のときあいさつをしている人は園児、小中高校生で 9 割、一般市民で 8 割
孤食率は一般市民の朝食で 4 割、夕食で 2 割、小中高校生の朝食で 4 割、夕食で 1 割、園児の朝食で 7%
食事中にゲームや携帯電話を使用している小中高校生は 1 割。遊びながら食事をする園児は 1 割
郷土料理をまったく食べないが 5 割、行事食をまったく食べないが 1 割

地元食材の認知度は 37.5%で前回より増加、購入率も増加
「地産地消」の内容認知度は前回と同程度
「地産地消」の大切さは一般市民で 7 割、小中高校生で 8 割
「食品ロス」の認知度は 7 割
食品ロスに対して具体的な取り組みをしている人が多い
食べ残しをしなかった人は一般市民の 7 割、小中高校生で 6 割、園児で 2 割

食育の認知度は高まっているが、計画の認知度は 1 割
食育への関心を持っている人は一般市民で 5 割、園児の保護者で 8 割
食育のための行動をしている人は、3 割で前回より増加

食と健康に関する課題

子どもは親の影響を受けるため、親への働きかけが重要
実践に向けた働きかけ、動機づけが必要
朝食の質に着目し、市民が実践できるよう周知啓発が必要
食事バランスガイドの活用に向けた周知啓発が必要
子どもへ正しい健康観を持たせる働きかけが重要
食生活改善の意識を高め、実践へと結びつける
園・学校・職場などとの連携を図るための関係づくりが重要
関係機関や関係者が横の連携を図る必要がある

食と心に関する課題

子どもは親の影響を受けるため、親への働きかけが重要
郷土料理は敬遠されがちのため、郷土料理・行事食の周知啓発、学習の機会提供などの取り組みが必要

食と環境に関する課題

今後も理解を深めるため、市民が実践できる取り組みが必要
環境に優しい食生活の実践
より環境にやさしい生活をするために、さらなる啓発と実践を促進するための取り組みが必要
生産者や調理者への感謝の気持ちなど、園や学校を通じた取り組みが必要

食育の理解と実践に関する課題

計画の更なる PR
年代に応じた取り組み、多様な視点での周知啓発

ライフステージの表

	内容	乳幼児期 (0-5歳頃)	学童期 (6-12歳頃)	思春期 (13-15歳頃)	青年期 (16-24歳頃)	壮年期 (25-44歳頃)	中年期 (45-64歳頃)	高齢期 (65歳以上)
基本目標		味覚が発達する時期です。親など身近な人が、「こころ」と「からだ」の健康につながる望ましい食習慣や食への関心を高めるよう働きかけましょう。	自分でできることの範囲が広がります。家庭や学校、地域との連携により、「こころ」と「からだ」の健康につながる食について学びましょう。	子どもから大人へ移行する時期です。家庭や学校、地域との連携により、大人への体をつくるために必要な食について学びましょう。	生活習慣の問題や乱れを引き起こしやすい時期です。食への知識や経験を深め、自分で自分の食や健康を管理できるようになりましょう。	心身ともに充実する時期です。食への知識や経験を深め、自分や家族も含めた食や健康の管理に取り組みしましょう。	次第に体の機能低下し、健康に対する関心が高まる時期です。食への知識や経験を深め、食を楽しみましょう。	年齢や健康状態に応じて生きがいを持ち、自分の体力に応じた生活を維持することが重要な時期です。食を楽しみながら、食文化の継承に努めましょう。
2	■「いただきます」「ごちそうさま」を言いましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■よく噛んで、味わって食べましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■食への感謝の心を育みましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■家族や友人と会話を楽しみながら食事をしましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■栽培や収穫の体験をしましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■規則正しい食習慣を身につけましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■「早寝 早起き 朝ごはん運動」を実践しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■食に関する興味や関心を持ちましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■食事のマナーを身につけましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■自分で食事を作ってみましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■食に関する正しい知識を持ちましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
2	■食文化を伝承しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■自宅で食べる野菜を栽培しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■地域の産物を積極的に利用しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■地域でとれる旬の食材を活用して、季節感を楽しみましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■食べ残しを減らしましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■食材や水を大切に使いましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
4	■食育についての理解を深めましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
4	■食育に関するイベントや講習会に参加しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■マイバックを利用し、過剰包装をやめましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■食品容器のリサイクルに協力しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■食べないで捨てられる食品を減らしましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■バランスのとれた食事を作りましょう、食べましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
1	■自分の適正体重を知り、食事と運動を合わせて肥満や痩せを予防・解消しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
3	■買いすぎ、作りすぎには注意しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
4	■こまき食育応援団（サポーター）に参加しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
4	■こまき食育応援店を推進しましょう	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆